

## 令和 7 年度学校法人のびる学園

### 幼保連携型認定こども園のびる幼稚園事業報告

#### 1、園児募集

表：年度末利用者数と定員充足率

| 学年   | 年長   | 年中   | 年少   | 満三歳  | 2 歳児 | 1 歳児 | 0 歳児 | 合計    |
|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 幼稚園部 | 34 人 | 33 人 | 28 人 | 12 人 | 無    | 無    | 無    | 107 人 |
| 保育園部 | 19 人 | 19 人 | 18 人 | 無    | 12 人 | 6 人  | 3 人  | 77 人  |
| 合計   | 53 人 | 52 人 | 46 人 | 12 人 | 12 人 | 6 人  | 3 人  | 184 人 |
| 充足率  | 106% | 104% | 92%  | 60%  | 100% | 100% | 100% | 96%   |

令和 7 年度定員充足率は、全体で 96%であった。上の学年に行くほど定員充足が高い状況を見れば、毎年のことながら少子化の影響を感じざるを得ない。しかしながら、各家庭の働き方の変化もあり、保育部の需要はますます高くなっている。長時間保育の必要数や発達の差がある園児への配慮等も増えており、職員数の問題や安全担保の観点から保育部入所数を考慮しなくてはならない場面もあった。令和 7 年度内で行われた入園募集はさらに少なくなり年少の入園決定者は 40 名を下回る結果になった。当年度はこれを受け、定員数を合計 191 人から 11 人減とし、180 人を利用定員とする改定を行った。

#### 2、保育計画及び教育計画と職員研修

当園の教育目標である「自分で遊びをみつけられる子」を中心に考え、保育・教育の理念を再確認し全職員が目的を共有するために園長が研修を行った。また、外部講師による職員間のコミュニケーション講座とグループごとの研修会を開催した。

○自己判断のみの行動にならないように主任等に事前に助言を求めたり、報告したりすることのできる会議の構築し、その内容の補完や情報共有に関し、Chartwork のチャットを利用した。このことにより業務中でも情報共有が出来るようになった。

○主任等クラスを運営するものは、適切で具体的な指示で他の保育者に指示できることや経験の浅い職員に精神的な面でも援助や配慮が出来るような研修を探し受講した。当年度

は結果、オンライン研修会が多かった。開催側の諸事情や現場から離れることの出来ない環境等もあり、オンラインを選択したが出来れば、学びの効率を考えると質疑応答や分科 GW が出来る講師との対面による研修を多くしたかった。

### 3、学校評価委員会

当年度も引き続き学校評議委員の方々に来園していただき保育を観覧して頂き、後の委員会で忌憚のない意見を頂く。委員会で頂いた意見は自己評価とともに纏めて、別紙にて理事長に報告する。

### 4、設備の整備及び管理

当年度は、屋外遊具床材の張替えと園庭に架かる橋に設置された門扉を交換した。いずれも経年劣化によるものであるが、特に門扉に関しては、開放時に用水路への落下防止柵の役割も兼ねている為大変重要な設備であるので、安全に配慮し当年度に一部補助金を利用し整備を行った。これを受け、当年度は将来的な大規模修繕及び建替の為の積立は 600 万円とした。

### 5、採用及び人材育成

令和 7 年度は新卒者の採用にはいたらなかった。改めて人材確保の難しさを感じるようになった。令和 8 年度の採用活動は迅速かつ遅滞なく計画を進めたい。インターネットによる採用広報活動も行っているが、トラブル等も多いので、現行で契約しているサイトを最大限活用する方がよいと考える。また、人材紹介料の高騰もあり、できるだけ就職フェア等への参加や開催によって人材を確保する努力をした方が良かった。

### 6、財務運営および運営管理

会計処理に関しては、例年通り適切に処理をした。流動資金に多少余裕もあるので、収支でマイナスになっても、修繕や構築物の整備を行った。物価高騰に関しては、補助金等を適切に申請し、年度内に次年度納の値上変更に関する手続きを完了した。

学校法人のびる学園

理事長 月野進